

歴史教育者協議会近畿ブロック研究集会

「主権者を育てる社会科教育を創る

—あらためて小・中・高の連携を求めて—



コロナ禍が、子どもたちや学校、教職員の活動を制約してきました。社会の課題もうきぼりにしています。

総選挙の結果は、あらためて日頃からの主権者教育の大切さを考えさせるものでした。

子どものくらしと地域に根ざしたわかる授業、主権者を育てる教育を願って、近畿の各地でがんばってきた取組みを交流し、学び合しましょう。

2022年 **1月15日(土)** 11:00~17:00

Zoomによるオンライン開催

授業公開はビデオ録画を視聴

第1部 授業研究					第2部 テーマ討論			
11:00~12:00	12:00	12:55~	13:30~	14:30	14:45~16:05	16:05	16:15~17:00	
授業公開 <small>ビデオ視聴</small>	休憩	授業者報告	研究協議	休憩	パネルディスカッション	休憩	質疑 討論	

第1部 授業研究

大阪暁光高校 和井田祐司

「”悪”と向き合う—アイヒマン裁判考」 (2年生世界史B)

ナチス・ドイツの戦争犯罪をふり返り、それらがどのような「悪」か自分の意見を出し合い、誰が・いつ・どのようにすればユダヤ人大量虐殺等の戦争犯罪を防げたのかを考えます。

アイヒマン裁判を題材に、アイヒマンの有罪・無罪・ふさわしい量刑を考え、アーレントの主張に対して話し合います。

第2部 テーマ討論 パネルディスカッション

「主権者を育てる社会科教育を創る —あらためて小・中・高の連携を求めて—

2022年4月、高校の地歴科、公民科では「地理総合」「歴史総合」「公共」が登場し、40年続いた「現代社会」が廃止され、「世界史」必修が終わります。今回の高校社会科系科目の改変は、1989年告示学習指導要領において行われた社会科解体（小学校1、2年の「生活科」新設、高等学校における地理歴史科と公民科の分離）以降の大変革となります。

高校に設置された新科目は、改正公職選挙法を視野に「18歳の段階で身に付けておくべき力は何か」を検討する中で登場しました。その意味で主権者教育を担う科目として位置づけられるでしょう。これらの科目は中学校社会科に引き続いて履修する必修科目であり、「現代社会」が必修から外れて以来30年ぶりに登場する「総合社会科」という側面もあります。

3人の問題提起を受けて、小・中・高校のそれぞれで主権者を育てる社会科教育の在り方を考えましょう。

小学校	川本治雄	(滋賀県歴教協、大学名誉教授)
中学校	岩本賢治	(兵庫歴教協、中学校および大学非常勤講師)
高等学校	井ノ口貴史	(大阪歴教協、大学非常勤講師)
コーディネーター	浅井義弘	(大阪歴教協事務局長)



写真は 大阪暁光高校の前庭で撮影

「風の中を走る少女の像」と「ユネスコ学習権宣言の碑」

★申し込み：希望者は1月6日までに、
各府県事務局に

各府県事務局が大阪歴教協の所定のアドレス
まで、1月8日(土)までにメールで申し込み。
折り返し、ZoomのURL・ID・パスコードを連絡します。
Zoomミーティングの諸注意は、その時にお知らせ
します。

★定員：100人



問い合わせ先：大阪歴史教育者協議会事務局 浅井義弘